

資料編

1. 用語集
2. 計画の策定体制・策定経過
 - (1) 立川市地域公共交通活性化協議会委員名簿
 - (2) 計画の策定経過
3. 計画策定に向けて実施した調査結果について
 - ・ 調査内容一覧
 - ・ 市民アンケート調査票
 - ・ ワークショップ 開催レポート
4. 地域別カルテ



1. 用語集

あ行	
用語	解説
温室効果ガス	地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体の総称。温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素等がある。
温暖化	人間の活動が活発になるにつれて「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象。

か行	
用語	解説
回遊性	人々が特定の目的地だけでなく、まちなかを歩き回り、複数の場所に立ち寄りながら移動・滞在すること。
帰宅困難者	大規模な地震その他の災害が発生したことに伴い、公共交通機関が運行を停止し、当分の間復旧の見通しがない場合において、事業所、学校等に通勤、通学し、又は買物その他の理由により来店し、若しくは来所する者等で徒歩により容易に帰宅することが困難なものをいう。
業務核都市	都区部以外の地域で相当程度広範囲の地域の中核となり、業務機能をはじめとする諸機能の適正な配置先の受け皿となるべき都市のこと。
くるりんバス	交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し、運行するコミュニティバス（市民バス）のこと。「くるりんバス」は立川市におけるバスの名称。
交通不便地域	立川市においては、以下の①、②の両方を満足しない地域を交通不便地域として設定している。 ①バス停もしくは鉄道駅、モノレール駅のいずれかから 300m 以内の地域 ②①の対象となるバス停は、運行本数が 1 時間に 1 本以上（片道）のバス停（片道：17 本/日）
交通モード	交通手段、輸送方式のこと。
交通結節点	人や物の輸送において、交通手段の接続が行われ、複数の交通モードが集まる場所のこと（鉄道駅など）。
交通案内サイン	駅等における乗降条件や位置関係等を案内するのに必要なサインのこと。
コミュニティバス（くるりんバス）再編計画	平成 28 年度にくるりんバスのルートを再編するにあたり作成した、課題や運行コンセプト、運行ルート、運行サービス水準、運行継続基準等を示す計画のこと。

さ行	
用語	解説
市街化調整区域	都市計画法による都市計画区域のひとつで、市街化を抑制すべき区域。原則として新たな建築は制限される。
シェアサイクル	利用登録をして他の人たちと共用で自転車を利用できるサービス。各所に設置されたステーション（専用の駐輪場）であれば、任意に自転車を借りたり返したりできる。
シェアリングモビリティ	車や自転車などの移動手段を不特定多数の利用者で共有して利用できる交通サービス（カーシェア、シェアサイクルなど）のこと。
自転車ナビマーク	自転車が通行すべき部分及び進行すべき方向を明示するマーク（自転車のピクトグラムと白色の矢印）。

自転車ナビライン	自転車が通行すべき部分及び進行すべき方向を明示するライン（青色の矢羽根印で交差点付近に連続して描かれているもの）。
自動運転レベル	米国自動車技術者協会（SAE）や国土交通省が定義しているレベル0～レベル5までの6段階の自動運転技術の水準のこと。レベル5では制限なく全ての運転操作が自動化され、近年国内ではレベル4まで認可されている事例もある。
首都圏基本計画	国が定める、首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県及び山梨県）の整備に関する基本的・総合的な計画のこと。
需要規模	公共交通サービスに対して、実際または見込まれる利用人数を示す目安であり、供給の効率性や効果を判断する指標の一つのこと。
スケアード・ストレイト方式	怖い思い、ヒヤッとする体験を通じて啓発効果を高める教育技法のこと。具体的には、スタントマンによるリアルな交通事故を再現し、交通事故防止に向けた周知啓発などを行うことなどがある。
ゾーン	一定の広がりをもつ地域のこと。
ゾーニング	同じ性格のまとまりごとにゾーンに区域を区分すること。

た行	
用語	解説
立川崖線（たちかわがいせん）	古代多摩川が南へ流れを変える過程で武蔵野台地を削ってできた河岸段丘。湧水が豊富で、自然や野鳥の生息空間として貴重。立川市では高さ約15m、全体として約40kmの長さがある。
デジタルサイネージ	屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を視覚的に分かりやすく発信するメディアの総称のこと。
都市計画道路	都市計画に基づき整備される主要道路。交通ネットワーク基盤を形成。
トリップ	人がある目的をもってある地点からある地点まで移動することの総称。1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えた場合も1つのトリップと数える。

な行	
用語	解説
ニーズ	公共交通サービスの水準（サービス量、質、対価等）向上に対する意向・要望。
乗合交通	不特定多数の人を乗り合わせて運行する交通手段のこと。

は行	
用語	解説
バリアフリー	バリア(障壁)をフリー(解消)にすることで、高齢者・障害者など障害を持つ人々が生活しやすい環境を整備しようとする考えのこと。バリアには、段差などの具体的な障壁だけではなく、制度や差別意識など幅広い概念を含む。
バスロケーションシステム	車載器を積んだバスから、車両ID（個々の車両を識別する番号）、時刻、位置情報（緯度・経度）などをセンタ側に一定間隔で送信し、センタ側で計算した結果として、車両の現在位置を把握し、インターネットや携帯電話などを通じて、利用者に対して路線バス・高速バスの運行状況やバス停への接近情報などを表示・提供することにより、バス利用の利便性の向上を図るシステムのこと。
パイロット事業	事業等の本格実施の前に、効果や課題を検証するために行う実証実験のこと。
ビッグデータ	大量かつ多様なデータを収集・解析し価値を創出する概念。

複々線化	既設線路の横に並行して路線を増設する方法や既設線路の真下に線路を新設する方法など、鉄道路線の輸送力の大幅な増強、ラッシュ時の混雑を緩和するための鉄道整備事業。
フレイル	高齢期に心身の活力（筋肉や認知機能、社会のつながりなど）を含む生活機能が低下し、将来要介護状態となる危険性が高い状態のこと。

ま行	
用語	解説
メッシュ	緯度・経度に基づき地域をすき間なく網の目（Mesh）に分けて、500mなどの単位で四方に区切った区域のこと。
モビリティ	単なる乗り物（自動車等）だけでなく、人やモノの移動を支える手段、サービス、技術の総称のこと。
モビリティハブ	鉄道・バス・シェアサイクルなどの複数の交通手段が集約されて効率的に乗り換えができる結節点となる施設や場所のこと。
モビリティ・マネジメント	当該の地域や都市を「過度に自家用車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていく、一連の取り組みのこと。

や行	
用語	解説
ユニバーサルデザイン	年齢、性別、国籍、能力等にかかわらず、できるだけ多くの人が利用しやすい生活環境にする考え方。バリアフリーの取組みが、高齢者や障害者等が生活を営む上での様々なバリア（物理的、制度、文化・情報、意識等）のすべてを取り除くことが目的である一方、ユニバーサルデザインのまちづくりでは、あらかじめ多様なニーズを想像し「バリアを最初から作らない」「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という考え方に基づいて生活環境の整備が進められる。
ユニバーサルデザインタクシー	一般のタクシーのうち、高齢者、障害者等が他の旅客と同じように利用し、予約制の福祉限定による利用に限らず流しの運行による利用も想定されるもの。車椅子使用者が乗り込めるドア開口部の高さ、間口の広いドアが確保され、低床、フラットな床で、スロープを備え、車椅子使用者以外の障害者、高齢者等も乗降しやすいものとされる。

A～Z	
用語	解説
EV	電気駆動のモーターで動く二酸化炭素等の排出を抑えた環境に優しい自動車のこと。
GPS 位置情報データ	スマートフォン等に搭載されているGPS（現在位置を特定するためのシステム）による情報をもとに、通信事業者やアプリ提供事業者が提供する移動データのこと。
MaaS	Mobility as a Service の略。複数交通手段を統合し一体的に提供する仕組み。
ZEV	Zero Emission Vehicle の略称であり、走行時に二酸化炭素等の温室効果ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池自動車等のこと。

2. 計画の策定体制・策定経過

(1) 立川市地域公共交通活性化協議会委員名簿(令和8年2月1日時点)

NO	根拠(条例)		団体名	委員情報		
				役職	氏名	
1	1号	学識経験者	東洋大学 国際学部 国際地域学科	教授	岡村 敏之	
2	1号		東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科	准教授	稲垣 具志	
3	2号	公共交通事業者等の関係者	立川バス株式会社	運輸部 計画課長	佐藤 祐浩	
4	2号		西武バス株式会社	計画部 計画課長	秦野 凌	
5	2号		京王電鉄バス株式会社	運輸営業部 乗合事業担当課長	三浦 裕介	
6	2号		一般社団法人 東京バス協会	乗合業務部長	富樫 秀樹	
7	2号		一般社団法人 東京ハイヤー・タクシー協会 三多摩支部	事務局長	高筒 滋	
8	2号		多摩都市モノレール株式会社	運輸部 課長(旅客担当・事業担当)	梶田 宜希	
9	2号		東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社	企画総務部 経営戦略ユニット マネージャー	倉科 大地	
10	2号		西武鉄道株式会社	鉄道本部計画管理部 駅まち創造課長	岩澤 貴顕	
11	2号		立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人	
12	3号		関係行政機関の職員	東京都都市整備局	都市基盤部 交通企画課 地域公共交通担当課長	吉川 昌孝
13	3号			国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官(輸送)	小林 聡
14	3号	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局		首席運輸企画専門官(総務企画)	中山 俊夫	
15	3号	東京都北多摩北部建設事務所		管理課長	榊原 元秋	
16	3号	警視庁 立川警察署		立川警察署 交通課長 警視	小楠 英之	
17	3号	国土交通省 関東地方整備局		建政部 都市整備課長	青山 琢人	
18	4号	公募による市民	市民公募		伊藤 和香子	
19	4号		市民公募		千葉 雄太	
20	4号		市民公募		鈴木 学	
21	4号		市民公募		宮本 直樹	
22	4号		市民公募		矢倉 邦彦	
23	5号	利用者の代表者	立川市自治会連合会	副会長	梅田 茂之	
24	5号		立川市老人クラブ連合会	元副会長	岡本 康彦	
25	5号		自立生活センター立川	ピアカウンセラー/相談員	大石 幸治	
26	5号		社会福祉法人 立川市社会福祉協議会	地域福祉コーディネーター	浅見 由希乃	
27	5号		立川商工会議所	立川 MaaS 推進協議会会長	住吉 正光	
28	6号		市職員	立川市産業まちづくり部	部長	太田 勇
29	6号	立川市福祉部		部長	佐藤 岳之	

(2) 計画の策定経過

回	開催日時	主な議題
第1回	令和6年7月31日(水) 午前10時30分から	<ul style="list-style-type: none"> 立川市地域公共交通計画について 立川市の現状について 今後の調査方針について
第2回	令和6年10月4日(金) 午前10時から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市地域公共交通計画の策定について 立川市地域公共交通計画について 立川市の状況について 今後の調査計画について <ol style="list-style-type: none"> 市民アンケート調査について ワークショップの実施について
第3回	令和7年3月25日(火) 午後1時30分から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市地域公共交通計画の策定について 本日の議題と今後の流れについて 調査結果の報告について 移動像・生活像・将来予測の整理について 計画構成案・ニーズ・課題の整理について 将来像・基本方針(案)のたたき台について
第4回	令和7年6月4日(水) 午後2時から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度のくるりんバスの運行状況について(報告) (2) 立川市地域公共交通計画の策定について <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ結果及び生活像の更新(報告) 課題・将来像・基本方針の見直し及び施策の方向性について(協議)
第5回	令和7年9月8日(月) 午後2時から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市地域公共交通計画の策定について 地域公共交通計画の骨子案について(報告) 施策案・事業例について 評価指標と数値目標について 計画の推進体制と進捗・達成状況の評価について
第6回	令和7年11月26日(水) 午後3時から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市地域公共交通計画素案について
第7回	令和8年2月25日(水) 午後3時から	<ul style="list-style-type: none"> (1) 立川市地域公共交通計画原案について (2) 来年度のスケジュールについて

3. 計画策定に向けて実施した調査結果について

調査	調査内容等	計画書 掲載箇所	データ集 掲載箇所
立川市の現状	用途地域・土地利用の状況	P5-6	—
	人口分布・高齢化率分布	P7-8	—
	人口および高齢化率の推移・推計	P9 概要のみ	P3 詳細版
	公共交通網	P10	—
	公共交通利用者数の推移（鉄軌道・路線バス）	P11	P4-5 詳細版 （駅別/事業者別）
	公共交通の運転者数の推移	P11 乗合バス・貸切バスの 運転者数	P6-7 （大型二種免許保有者、タク シーの乗務員数の推移）
	バスの運行状況	P12-13 運行状況、減便状況	P9 詳細版 （時間帯別運行状況）
	交通不便地域の分布と主要施設の 立地状況	P14	P8 （時間帯別）
	市民の移動実態	—	P10-11
	商業圏域	—	P12
市民 アンケート	実施概要（調査方法・回答数等）	—	P13
	調査票	P95～97 ※資料編	—
	調査結果	P19-21, 24, 26 主な調査結果	P14-46 単純集計結果
ワーク ショップ	開催概要	P23, 43 ※開催レポートを資料 編に掲載(P98～109)	—
	実施結果	P22, 25 主な意見	P47-60
バス利用者 アンケート	調査の実施概要	—	P61
	調査票	—	P61
	主な調査結果	—	P62-63
来街者意向調 査（既存調査 レビュー）	調査概要	—	P64
	主な結果	—	P65-66
ヒアリング 調査	ヒアリング実施概要	—	P67
	交通事業者へのヒアリング結果	P15 バス事業者のみ	P68 バス事業者以外も含む
	福祉関係者へのヒアリング結果	P26 地域福祉 コーディネーターのみ	P69 地域福祉コーディネーター以 外も含む
位置情報 ビッグデータ	分析データ概要	—	P70
	滞在場所	P16 平休別	P71-72 推定居住地別
	0D分析	P17 時間帯別	—
	市内居住者の居住地別目的地	P18	—

市民アンケート調査票（設問1）

立川市 地域公共交通に関する市民アンケート調査

1 あなたご自身についてお答えください。（1つEO）

1-1 あなたの年齢を教えてください。（1つEO）

- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 15歳-18歳 | 2. 19歳-22歳 | 3. 23歳-29歳 | 4. 30歳代 |
| 5. 40歳代 | 6. 50歳代 | 7. 60-64歳 | 8. 65-69歳 |
| 9. 70-74歳 | 10. 75-79歳 | 11. 80歳以上 | |

1-2 あなたのお住まいについて教えてください。（1つEO）

- ① 住所（1つEO）
- | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 1. 富士見町 | 2. 柴崎町 | 3. 錦町 | 4. 羽衣町 | 5. 曙町 | 6. 高松町 |
| 7. 緑町 | 8. 泉町 | 9. 栄町 | 10. 若葉町 | 11. 幸町 | 12. 柏町 |
| 13. 砂川町 | 14. 上砂町 | 15. 一番町 | 16. 西砂町 | | |
- ② 丁目 () 丁目
 ③ 番・番地 () 番・番地

1-3 あなたの世帯構成について教えてください。（1つEO）

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 単身 | 2. 夫婦(子どもはいない) | 3. 親・子(2世代) |
| 4. 親・子・孫(3世代) | 5. その他 () | |

1-4 あなたが同居している家族の年齢を教えてください。（あてはまるものすべてEO）

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 同居人はいない | 2. 乳幼児(0歳-3歳) | 3. 幼児(4歳-6歳) |
| 4. 小学生(7歳-12歳) | 5. 中学生(13歳-15歳) | 6. 高校生(16歳-18歳) |
| 7. 19-64歳の方 | 8. 65歳以上の方 | |

1-5 自動車運転免許は保有していますか。（1つEO）

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 現在保有している | 2. 以前保有していたが、現在は保有していない |
| 3. 一度も保有したことはない | |

1-6 65歳以上の方は、免許返納意向について教えてください。（1つEO）

- | |
|--|
| 1. 近いうちに免許を返納することを考えている(運転経歴証明書をもつ場合を含む) |
| 2. 近いうちに免許を返納するつもりは無いが、将来的に返納するつもりである |
| 3. 近いうちにも、将来的にも、免許を返納するつもりはない |
| 4. 免許を現在保有していない |

1-7 70歳以上の方は、東京都シルバーパスの利用について教えてください。（1つEO）

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

1-8 あなたには、自家用車で送迎してくれる家族等（親族・知人）がいますか。（1つEO）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 日常的に送迎してくれる家族等がいる | 2. 困ったときに送迎してくれる家族等がいる |
| 3. 送迎してくれる家族等はいない | |

1-9 あなたが所有している自動車、バイク・原付、自転車はありますか。（それぞれ1つEO）

- | | | | |
|---------|-----------|----------|------------|
| ①自動車 | 1. 所有している | 2. 家族で共用 | 3. 所有していない |
| ②バイク・原付 | 1. 所有している | 2. 家族で共用 | 3. 所有していない |
| ③自転車 | 1. 所有している | 2. 家族で共用 | 3. 所有していない |

1-10 あなたは次のシェアリングサービスを利用したことがありますか。（それぞれ1つEO）

- | | | | |
|-----------------|-----------|--------------|--------------|
| ①シェアサイクル | 1. よく利用する | 2. 利用したことがある | 3. 利用したことばない |
| ②カーシェアリング | 1. よく利用する | 2. 利用したことがある | 3. 利用したことばない |
| ③電動キックボードシェアリング | 1. よく利用する | 2. 利用したことがある | 3. 利用したことばない |

1-11 あなたの外出に関する身体的な困難さはどれにあてはまりますか。（1つEO）

- | |
|--|
| 1. 困難ではない |
| 2. 多少困難はあるが、一人で外出する(杖などの補助具があれば、一人で外出できる方) |
| 3. 一部で介助が必要(必要な部分で介助があれば一人で外出できる方) |
| 4. 常に介助が必要(介助者が常に同行していれば外出できる方) |
| 5. 基本的に外出できな(病気などにより寛たきりでも外出できない方) |

1-12 普段、自宅から出かけるときに最初に利用する鉄道・モノレール駅と、そこまでの交通手段を教えてください。

- ① 自宅から出かけるときに最初に利用する鉄道・モノレール駅（最も近い駅をすべてEO）
- | | | | |
|-----------|---------------|-------------|-----------|
| JR線 | 1. 立川駅 | 2. 西立川駅 | 3. 西国立駅 |
| 西武線 | 4. 玉川上水駅 | 5. 武蔵砂川駅 | 6. 西武立川駅 |
| 多摩都市モノレール | 7. 柴崎体育館駅 | 8. 立川南駅 | 9. 立川北駅 |
| | 10. 高松駅 | 11. 立飛駅 | 12. 果体育館駅 |
| | 13. 砂川七番駅 | 14. 玉川上水駅 | |
| 市外 | 15. その他 () 駅 | 16. 駅は利用しない | |
- ② 自宅から①の駅までの交通手段（利用するものすべてEO）
- | | | |
|-------------|-------------------|---------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車(ご自身・家族で所有) | 3. シェアサイクル |
| 4. バイク・原付 | 5. 路線バス | 6. くるりんバス |
| 7. タクシー | 8. 自動車(自分で運転) | 9. 自動車(家族等に送迎してもらう) |
| 10. その他 () | | |

1-13 普段、自宅から出かけるときに最初に利用するバス停と、自宅からそこまでの所要時間を教えてください。

- ① 自宅から出かけるときに最初に利用するバス停（カッコ内に直接記入・もしくはEO）
- () バス停・バスは利用しない
- ② 自宅から①のバス停までの徒歩での所要時間（カッコ内に数値を直接記入）
- 約 () 分

1-14 普段の一週間の外出頻度を教えてください。（カッコ内に直接記入・もしくはEO）

- 【平日（月～金曜日）】 () 日程度/週・平日は外出しない
- 【休日（土・日曜日）】 () 日程度/週・休日は外出しない

市民アンケート調査票（設問 2-1 ※設問 2-2、2-3 も同様）

2 あなたの2024年4月から9月までの移動の状況についておたずねします。

2-1 あなたの【最もよく出かけた目的】の移動について
 (この大問は 2-1 2-2 2-3 があり、P.9まで続きます)

① 2024年4月から9月までの間に、あなたが【最もよく出かけた目的】を教えてください。(1つに○)

1. 通勤	2. 通学	3. 買物 (日常生活品)
4. 通院	5. 介助・付添い	6. 趣味・習い事
7. レジャー・娯楽、ショッピング (大型店)	8. 運動	
9. その他 ()		
10. 外出をほとんどしていない	P10 3 【立川市内の公共交通について】に進んでください	

② ①で選んだ【最もよく出かけた目的】の行先について、施設区分と施設名 (所在) を教えてください。

1) 【施設区分】 (以下から1つに○)

1. 職場	2. 学校	3. スーパー・マーケット
4. コンビニエンスストア	5. 薬局・ドラッグストア	6. 病院
7. 公共施設	8. 娯楽施設	9. 親族・知人宅
10. デパート・ショッピングモール・量販店	11. 公園・運動施設	
12. その他 ()		

2) 【施設名】 市内・市外のいずれかに○をしいただいた上で、カッコ内をご記入ください。

<p>行先の具体的な施設名または【別紙 施設リスト (抜粋)】の番号で回答いただくことも可能です。 ※施設区分が「1. 職場」「2. 学校」の場合は施設名の記入は不要です。</p> <p>1. 市内 ()</p>	<p>行先の市区町村名または最寄りの駅名 ()</p>
2. 市外 ()	

③ 「②」の場所に出かけた頻度を教えてください。(最もあてはまる1つに○)

1. ほぼ毎日	2. 週に6回	3. 週に5回	4. 週に4回
5. 週に3回	6. 週に2回	7. 週に1回	8. 月に1~3回程度
9. 月に1回未満			

④ 「②」の場所までの行き帰りに使う、立川市内での交通手段を教えてください。(利用するものすべてに○)

1. 徒歩	2. 自転車 (所有)	3. シェアサイクル	4. バイク・原付
5. 鉄道・モノレール	6. 路線バス	7. くるりんバス	8. タクシー
9. 自動車 (自分で運転)	10. 自動車 (家族等に送迎してもらう)	11. その他 ()	

「鉄道・モノレール」を選択した方は、
 市内で利用した駅 (乗降駅または乗降車駅) を教えてください。(駅名を記入)
 乗降駅 () 駅 乗降車駅 () 駅

⑤ 自宅から「②」の場所までにかかる所要時間を教えてください。(カッコ内に数値を記入)
 約 () 分

⑥ 「④」で「6. 路線バス」「7. くるりんバス」を選んだ人にお聞きします。交通手段としてバスを選択した理由があれば教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. バス停が自宅から近い	2. バス停が目的地に近い
3. 移動時間が効率的である	4. 運行本数が多く好きな時に利用できる
5. 安全に目的地まで行ける	6. 移動が快適である
7. 他の交通手段より安価である	8. 他に交通手段がない
9. 特に理由はない	10. その他 ()

⑦ 「④」で「6. 路線バス」「7. くるりんバス」を選ばなかった人にお聞きします。バスを利用しなかった理由について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 始発が遅い	2. 終発が早い
3. 目的地に行くバス路線がない	4. 運行本数が少ない
5. バス停が家のそばにない	6. 迂回が多く所要時間がかかる
7. 渋滞などでよく遅れる	8. 目的地や駅が家から近い
9. お金がかかると感じる・運賃が高い	10. 乗り継ぎが面倒
11. 家族等が送迎してくれる	12. 他の交通手段の方が便利
13. 運行をよく知らない	14. その他 ()

⑧ 「②」の場所までは、主に何人で外出することが多いですか。(最もあてはまる1つに○)

1. 1人 (あなたのみ)	2. 2人 (あなたと同行者1人)
3. 3人 (あなたと同行者2人)	4. 4人以上 (あなたと同行者3人以上)

⑨ 「⑤」で回答いただいた同行者の方の年代を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 同行者はいない	2. 乳幼児 (0歳から3歳)	3. 幼児 (4歳から6歳)
4. 小学生 (7歳から12歳)	5. 中学生 (13歳から15歳)	6. 高校生 (16歳から18歳)
7. 19~64歳の方	8. 65歳以上の方	

⑩ 「⑤」で回答いただいた同行者の方の、外出に際する身体的な困難さはどれにあてはまりますか。(1つに○)

1. 困難ではない	2. 多少困難 (杖などの補助具が必要)
3. 一部で介助が必要	4. 常に介助が必要



立川市公共交通ワークショップ 開催レポート



★開催概要★

少子高齢化や運転手不足などを背景に、本市でも公共交通を取り巻く環境が大きく変化していることから、持続可能な公共交通のあり方について検討が求められています。

こうした状況に対応するため、市では「立川市地域公共交通計画」の策定を進めています。計画策定にあたり、市民アンケートをはじめとする調査の一環として、日常生活や移動の実情や課題について、地域の皆さんならではの視点で考えていただくことを目的に、「立川市公共交通ワークショップ」を開催しました。

本ワークショップでいただいたご意見も参考に「立川市地域公共交通計画」の策定を進めてまいります。

【開催日・参加人数等】

地域	対象エリア	開催日	会場	参加人数 (第1回)	参加人数 (第2回)
A	一番町・西砂町	①1月19日(日)	西砂学習館	9	10
		②3月15日(土)			
B	上砂町・砂川町・柏町・泉町	①1月12日(日)	立川市役所	8	9
		②3月23日(日)			
C	若葉町・幸町・栄町	①1月12日(日)	幸学習館	15	13
		②3月9日(日)			
D	富士見町・柴崎町・緑町	①2月8日(土)	柴崎学習館	8	9
		②3月9日(日)			
E	錦町・羽衣町・曙町・高松町	①2月8日(土)	たましんRISURU ホール	19	19
		②3月15日(土)			





A 地域まとめ (第1回)



(一番町・西砂町)



3

テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見 (抜粋)

- 西砂町では、日常の移動手段として自動車での移動が多く、高齢者でも自動車で移動している。
- 連絡所ではできない手続き等のため市役所等に行く際には不便。
- 日常的な買い物は西武立川駅周辺(ヤオコー)、昭島駅周辺(モリタウン)が多い(一番町地域は武蔵村山方面も)。
- 地域内に公共施設は充実しているが、公共交通でのアクセスが課題。
- 路線バスが減便している一方で、くるりんバスは再編により増便(30分に1便)し、利便性が向上している。

テーマ
2

将来(10年後)の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

- 子育て世代の転入増、移動に課題を持つ高齢者が増加することで、移動困難者への対応が必要。
- 運転手不足や昼間人口の減少などを背景に、路線バスの更なる減便などが懸念される。
- くるりんバスでの昭島駅、西武立川駅へのアクセス維持が重要(近隣市との連携が必要)。
- GLP 昭島ができることによる交通状況の変化(渋滞や交通安全など)も踏まえて、地域の交通を考えていく必要がある。
- コミュニティ活動を活性化させるため、公共施設へのアクセス性を向上させる必要がある。





B 地域まとめ (第 1 回)

(上砂町・砂川町・柏町・泉町)



公共交通を取り巻く状況や地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見 (抜粋)

- ・ バス停まで距離がある地域では、移動手段を持たない高齢者がいる(近所の方に送迎してもらっている人もいる)。
- ・ 砂川町では日常生活で自動車や自転車が必要不可欠である。
- ・ 砂川町にはスーパーがないため、日常的な買い物は柏町や上砂町や武蔵村山市まで自動車や自転車で行っている。東西方向の公共交通が乏しいため、移動手段を持たない高齢者は買い物に不便を感じている。
- ・ 泉町には日常的な買い物をするスーパーがなく、立川駅まで出ていく必要がある(バスがライフライン)。



将来 (10 年後) の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

- ・ 高齢化や免許返納などで、移動手段を持たない高齢者が増える。日常生活の移動手段(買い物、通院等)や外出促進の観点から、交通手段の確保が必要。
- ・ 運転手不足で路線バスの減便が進む中、本当に必要な交通手段を精査する必要がある。
- ・ 運転手不足解消のため自動運転などの技術革新に期待。
- ・ 地域ごとの生活拠点を設ける必要性(地域の魅力向上、新たなコミュニティ形成)。
- ・ 子育て世代の視点も必要。子育て世代が気兼ねなく利用できる交通手段があるといい(子育てサロンへアクセス)。





C 地域まとめ (第1回)

(若葉町・幸町・栄町)



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見 (抜粋)

- 東西方向の公共交通がないため、若葉町方面から公共交通で市役所や泉市民体育館に行く際は立川駅を経由する必要がある。
- 高齢者が、運転に不安を持ちつつも自転車や自動車で移動しているケースや、ご近所で乗り合って自家用車で移動しているケースもあるが、免許返納後の移動手段に不安を抱えている。
- 立川駅方面が混雑していることから、国立駅方面のバスを利用することもある(若年層はシェアサイクルも利用)。
- 地域内にスーパー(オーケストア、ヤオコーetc)や病院・クリニックなどの施設は整っている。

テーマ
2

将来(10年後)の地域の姿を想像して、生活・移動
における課題を考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

- 運転手不足により、路線バスのさらなる減便が予想される(自動運転などの技術革新に期待)。
- 自転車や自動車で移動ができなくなった場合の、高齢者の日常生活における移動手段の確保が必要。
- 地域の支え合いでできている移動が、自身も高齢化することで維持できなくなる懸念がある。
- 生産年齢人口を維持していくためにもバス路線の維持は必要。
- 市役所に行かなくて済むような環境づくり。(地域内で行政手続きが完結できるといい。)





D 地域まとめ (第1回)

(富士見町・柴崎町・緑町)



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見 (抜粋)

- 崖線下(富士見町)は路線バスの運行本数が多いが、崖線上はここ数年で路線バスの減便が急激に進んでいる(奥多摩街道)。
- 富士見町では地域拠点として滝ノ上会館をよく利用している(公共交通のアクセスがよくない)。
- 富士見町4丁目周辺で移動手段を持たない高齢者は、ネットスーパーを利用している人もいる(外出が減っている)。
- 富士見町では、崖線下は団地周辺にスーパーなどが立地しているが、崖線上(富士見町4丁目、5丁目周辺)にはスーパーがない。
- 地域の医療機関が少なく、立川駅周辺に集中している。

テーマ
2

将来(10年後)の地域の姿を想像して、生活・移動
における課題を考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

- 運転手不足により一部バス路線の維持が困難になる。
- 路線バスの減便が進む富士見町の崖線上では、ネットスーパーの利用が増える(外出機会の減少)。
- 高齢者が増えることにより、免許返納後の買い物や通院が課題。
- 手続きのために市役所に行かなくてもよい環境になっていることに期待(行政手続きのデジタル化)。
- 地域の交流の場があるとよい。地域内で協力しあえる環境づくり。





E 地域まとめ (第 1 回)

(錦町・羽衣町・曙町・高松町)



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見 (抜粋)

- 京王バス(立 65・66 系統)の大幅減便により、立川駅北口への買い物・通院等での移動が不便になった(立川通り周辺住民)。
- バス停まで歩いていけない人はタクシーを利用している(錦町では通院でのタクシー利用が多い)。
- 錦町(坂下)ではくるりんバスが唯一の公共交通手段で沿線住民にとっては利便性が高い。
- 曙町では立川駅まで徒歩や自転車で移動している。
- 錦町では京王バスが減便し移動手段がなくなったことで、日常の買い物はネットスーパーを利用している人もいる(本当は商品を見て買いたい)。

テーマ
2

将来 (10 年後) の地域の姿を想像して、生活・移動
における課題を考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

- 今後、バス停まで歩けなくなるような高齢者が増えてくる。そういった高齢者の日常の移動手段の確保が必要。
- 路線バスの減便などの状況を踏まえてくるりんバス再編(ルート変更)が必要。
- 隣接自治体と連携した移動手段の維持・確保が必要(生活は立川市内では完結しない)。
- 通勤、通学などの主要な移動は路線バス、地域内の移動はデマンド交通、などの公共交通のすみ分けが必要(地域ごとに完結する小さな交通システム)。
- 技術革新によりきめ細やかな交通サービスが可能になるのでは。





★ 第2回まとめ ★

第2回ワークショップでは、地域の生活と移動を支える公共交通について考えていただくため、以下のテーマで話し合いました。

テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

第1回ワークショップの振り返りを踏まえて、以下の内容について話し合いました。

- ・〈地域の「幹」の交通を考えよう〉…路線バス等を取り巻く将来の状況を踏まえて、地域内の「幹」の役割として担うべき公共交通について
- ・〈地域の「枝葉」の交通を考えよう〉…既存の公共交通(路線バス等)ではこのままではカバーできないが、確保すべき「枝葉」の移動(目的や頻度など)について

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

テーマ1での話し合いを踏まえて、限られた資源の中で地域内の移動手段を確保・維持していくために、地域の皆さんで取り組めそうなことや活用できそうな輸送資源や担い手になれるような人、利用促進などのアイデアについて話し合いました。

ワークショップ
市政アドバイザー



東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 准教授
稲垣 具志先生
(立川市地域公共交通活性化協議会副会長)

稲垣先生からの講評 (第2回)

住民のつながりや信頼のような、目に見えない地域社会の相互関係を意味する「ソーシャル・キャピタル」という言葉があります。地域コミュニティとの結びつきが強い人ほど交通施策に対する理解が深く、新しい交通システムと自身の生活スタイルがなじみやすくなると言われています。このワークショップでは「ソーシャル・キャピタルを育む」という視点でも、参加された皆さんのポテンシャルの高さを感じることができました。今後も地域のキーパーソンである皆さんと一緒に、地域公共交通を創っていくことを楽しみにしています。





A 地域まとめ（第2回）

（一番町・西砂町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

■幹

ご意見（抜粋）

- ・鉄道および西武立川駅や昭島駅へのバスがこの地域にとって「幹」である。
- ・高齢者にとっては松中団地から立川駅までのバスも重要である。

■枝葉

- ・高齢者の買い物(週2～3回。主に西武立川駅や昭島駅)。
- ・公共施設(学習館、会館など(週2回))へのアクセス。
- ・通院目的(頻度(月1回～毎日)や通院先は人によって異なる)の移動。
- ・通勤(平日)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・福祉関係施設(デイサービス等)の車両の有効活用
- ・退職後の高齢者や若者の引きこもり対策としての社会参加など。
- ・自衛隊退職者の再雇用で運転手不足を解消できるのでは。
- ・自治会などの既存の地域団体が枝葉の交通を担う組織のきっかけとなるとよい。
- ・安全性を確保するための仕組みが必要。

■利用促進

- ・補助金、広報・制度説明等の観点で市と連携。
- ・紙媒体(広報誌等)や自治連で運営しているHPでの情報発信。
- ・スーパー等の事業者と連携して公共交通利用者へのポイント付与。





B 地域まとめ (第 2 回)

(上砂町・砂川町・柏町・泉町)



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見 (抜粋)

■幹

・玉川上水駅と立川駅間の移動(モノレール)、立川駅から武蔵村山市へ向かうバス路線

■枝葉

- ・東西方向の移動が「枝葉」の交通で確保できるとよい。
- ・買い物(週 2～3 回。実物を見て買いたい)目的の移動。
- ・公共施設(福社会館(週 2～3 回)、学習館、市役所など)への移動
- ・通院(買い物のついでに週 2 回程度)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

■担い手

- ・地域と行政の対話が重要。
- ・商業施設や福祉施設、病院などの送迎用車両等の活用。
- ・自治会や青少年健全育成委員会などの既存の団体を活用できるとよい。さまざまな立場の関係者が参加した地域団体。
- ・地域の中に人材はいるが、自家用車や普通免許で送迎が出来るような仕組みづくりが必要。ボランティア保険などの部分で行政との連携が必要。

■利用促進

- ・初回利用無料などの体験乗車により便利さを体感してもらう。
- ・既存の広報媒体を活用した情報発信。利用者による口コミなどの情報拡散。





C 地域まとめ (第2回)

(若葉町・幸町・栄町)



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見 (抜粋)

■幹

・立川駅行きや国立駅行きのバスは、この地域の「幹」の交通。

■枝葉

・「枝葉」の交通として若葉町から公共交通で東西の移動ができるとよい。

・高齢者の買い物(週1回)や通院(週1～月1回)、若葉会館(月1回～2回)や市役所(月1回～3回)などの公共施設への移動。

・通勤通学(週5回)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見 (抜粋)

■担い手

・地域と行政の情報共有や意見交換の場が必要。

・商業施設や福祉施設、病院などの送迎用車両等の活用。

・住民の意見を取りまとめるための団体を地域で立ち上げるのがよいのではないか。

・行政には二種免許がなくても市民が主体となって安心して運行できる仕組みづくり、車両確保や関係団体との調整などをしてもらいたい。

■利用促進

・自治会や若葉会館等を活用した情報発信。

・利用者の口コミの見える化。

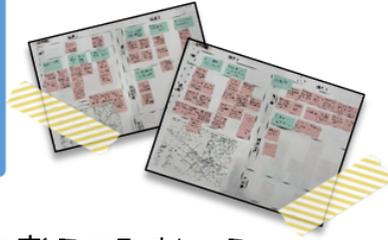
・シルバーパス利用者が使いやすくなるような施策。





D 地域まとめ（第2回）

（富士見町・柴崎町・緑町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

・立川駅～新奥多摩街道を走る路線バスが幹。

■枝葉

- ・滝ノ上会館(週1回～月3回)での住民の交流(カラオケ等)
- ・崖線上(富士見町)の路線バス減便が進んでいる地域における買い物などの日常生活での立川駅への移動。
- ・通院(週1～月1回)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・福祉事業所等の車両やドライバー確保の可能性。
- ・NPO 法人や隙間時間での市民ボランティアの確保。
- ・担い手も利用者も安心できる仕組みづくり。
- ・既存の宅配サービス(コンビニやスーパー)の周知。
- ・買い物や医療などの日常生活における機能を集約した地域拠点の整備とそこまでの交通手段。

■利用促進

- ・町会の掲示板や回覧板を活用した地域内での情報発信。
- ・利用者の口コミ。





E 地域まとめ（第2回） （錦町・羽衣町・曙町・高松町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

- ・立川駅から国立駅への東西のバス路線が幹。くるりんバス錦ルートが錦町エリアにとっては重要な移動手段となっているため、主要な施設を通るなどして「幹」としての機能を強化していくべき。
- ・高松町に居住する住民にとっては、モノレールが「幹」であると考える。

■枝葉

- ・通院（週1回～2回）や買い物（ショッピング）（週2回）目的の移動、学習館等の公共施設への移動。

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・地域での担い手確保のためには資金・安全・責任面での保障等が必要。
- ・住民組織などの立ち上げにおいては市のサポートや呼びかけが必要。
- ・地域に根差した方がリーダーとなって運行を担ってもらえるとよい。
- ・福祉施設の送迎バスを活用して、複数の福祉施設を回るような手段があるとよいのではないか。
- ・運行ルート等を住民と市で話し合う場があるとよい。

■利用促進

- ・広報誌や回覧板などによる情報発信。
- ・地域内の公共施設やイベントを通じた周知。

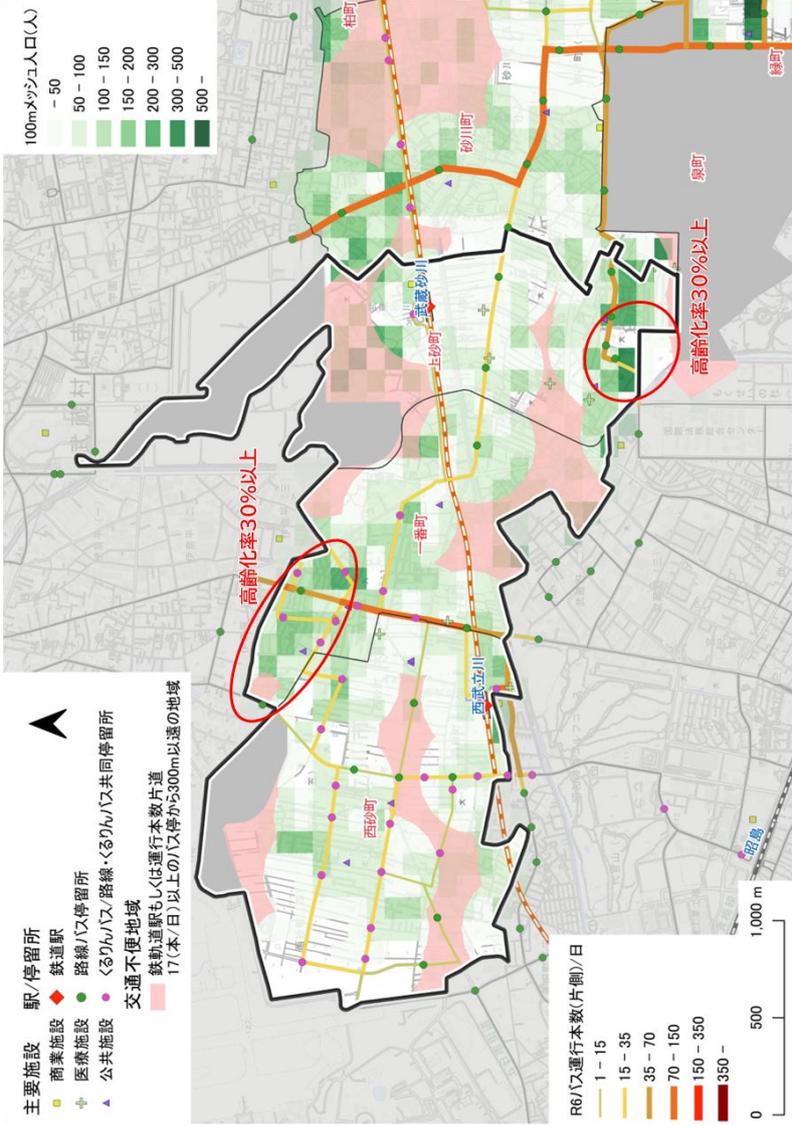


4. 地域別カルテ

以下の地域別に、その地域の生活や移動の特徴をまとめた地域カルテを整理しました。なお、本資料で示す「地域」は、市民アンケートの設問「自宅からの外出時に最初に利用する鉄軌道駅」への回答傾向をもとに、町をグルーピングしたものです。

- ・地域別カルテ①（西砂町・一番町・上砂町）
- ・地域別カルテ②（砂川町・柏町・幸町）
- ・地域別カルテ③（若葉町・栄町）
- ・地域別カルテ④（高松町・曙町・泉町・緑町）
- ・地域別カルテ⑤（富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町）

地域別カルテ① (西砂町・一番町・上砂町) - 地域・移動特性 -



図：現況図(西砂町・一番町・上砂町)

表：町別の市民の行先(発着地)

発地	総トリップ数(発)	ゾーン内々	着地(上位5位)				
			1位	2位	3位	4位	5位
西砂町	5,600	27%	昭島市 13%	東京23区 8%	武蔵村山市 7%	一番町 6%	立川駅周辺 4%
一番町	5,500	24%	昭島市 12%	武蔵村山市 11%	西砂町 7%	東京23区 6%	上砂町 5%
上砂町	7,000	26%	東京23区 11%	昭島市 9%	武蔵村山市 7%	砂川町 7%	一番町 4%

出典：株式会社agood「ポイント型流動人口データ」

表：町別人口推移・R6高齢化率

	R6人口(人)	2015年→2024年人口増減率(R6)	高齢化率
西砂町	11,027	125%	17.2%
一番町	13,336	102%	28.7%
上砂町	10,766	97%	29.8%
合計	35,129	104%	25.4%



図：R6年齢構成比

出典：国勢調査、住民基本台帳より作成

表：主な目的における外出時市内において利用する交通手段

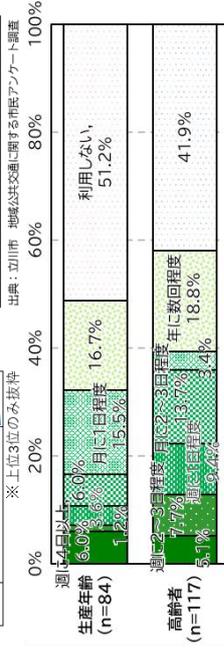
西砂町・一番町・上砂町	
生産年齢	(n=226)
1位	自動車(自分で運転) 42%
2位	自転車(所有) 26%
3位	徒歩 22%
高齢者(n=286)	
1位	路線バス 32%
2位	自動車(自分で運転) 27%
3位	徒歩 21%

出典：立川市 地域公共交通に関する市民アンケート調査

表：自宅からの外出時最初に利用する鉄軌道駅

西砂町・一番町・上砂町	
生産年齢	(n=81)
1位	西武立川駅 54%
2位	武蔵砂川駅 27%
3位	その他(昭島等) 10%
高齢者(n=90)	
1位	西武立川駅 37%
2位	武蔵砂川駅 29%
3位	立川駅 21%

※ 上位3位のみ抜粋

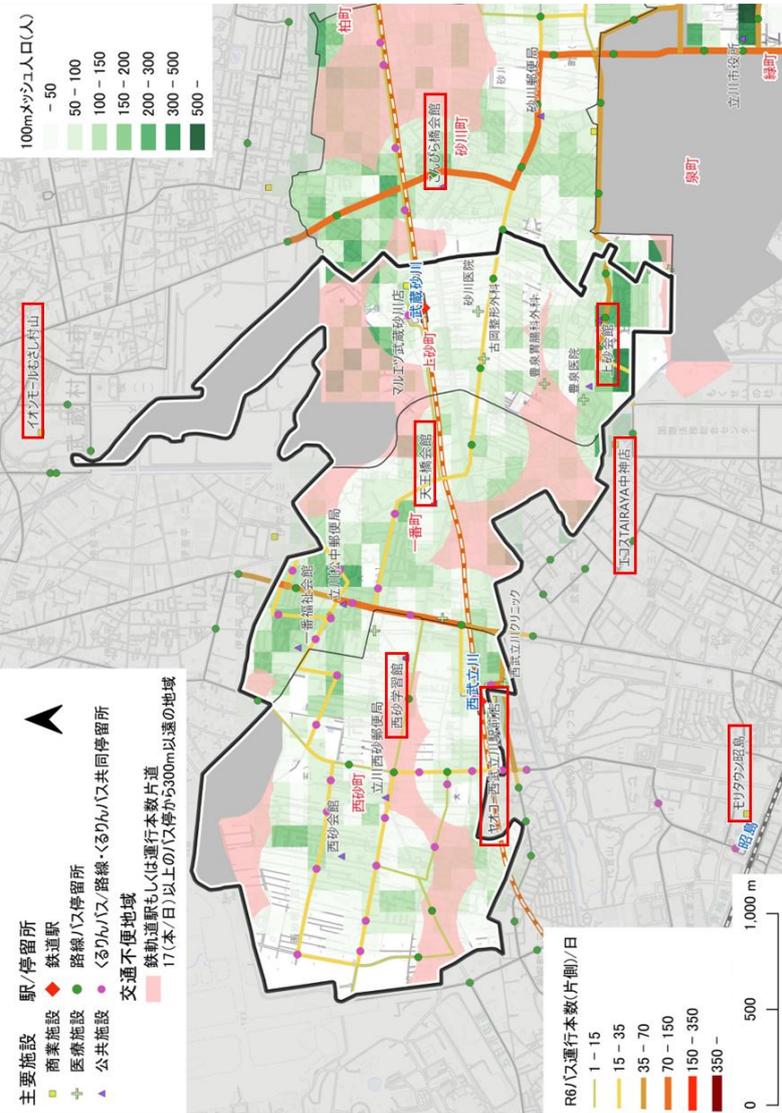


生産年齢(n=83)		高齢者(n=115)	
時々ある	22.9%	ほとんどない	38.6%
全くない	33.7%	よくある	20.9%
ほとんどない	38.6%	よくない	33.7%
よくない	33.7%	よくある	29.6%
よくない	33.7%	よくない	33.7%

図：交通手段が理由で外出をあきらめたことの有無

【人口/高齢化率】人口は一番町が微増、上砂町が微減傾向。西砂町は人口増減率が125%と最も高い。高齢化率は一番町と上砂町が29%前後であるのに対し、西砂町は約17%である。
 【交通不便地域/運行本数の少ないバス路線周辺やバス停から距離のある場所など】西砂町、一番町、上砂町の一部地域では交通不便地域が存在する。
 【鉄軌道駅/移動手段】自宅からの外出時、最初に利用する鉄軌道駅は、西武立川駅・武蔵砂川駅の利用が多い。生産年齢は自動車、自転車の利用率が高く、高齢者では路線バス、自動車の利用率が高い。
 【路線バス利用頻度/外出をあきらめたことの有無】高齢者の約22%が週1回以上、路線バスを利用している。交通手段が理由で外出をあきらめたことのある高齢者の割合は約33%である。

地域別カルテ① (西砂町・一番町・上砂町) - 施設立地・主な利用施設 -



■ ワークショップにおけるご意見の抜粋 (主な利用施設に関する内容)

- ・日常的な買い物は西武立川駅(ヤオコー)、昭島駅(モリタウン)方面で済ませていることが多い(一番町地域は武蔵村山方面も)。自動車利用者は、買い物の行先はさまざま。【西砂町・一番町】
- ・地域外の医療機関を利用していることが多い。地域外の総合病院へは駅からのシャトルバスなどを活用している。【西砂町・一番町】
- ・地域内に公共施設(会館、学習館・リサイクルセンターなど)は充実している。公共交通でのアクセスが課題。【西砂町・一番町】
- ・連絡所ではできない手続き等のために市役所に行く際は不便(昭島駅から電車で立川駅に行く必要あり)。【西砂町・一番町】

■ 【参考】(市域全体の最も・2番目・3番目によく出かけた目的における先行)

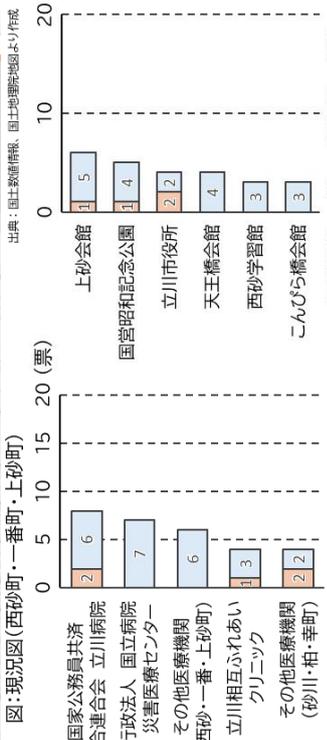
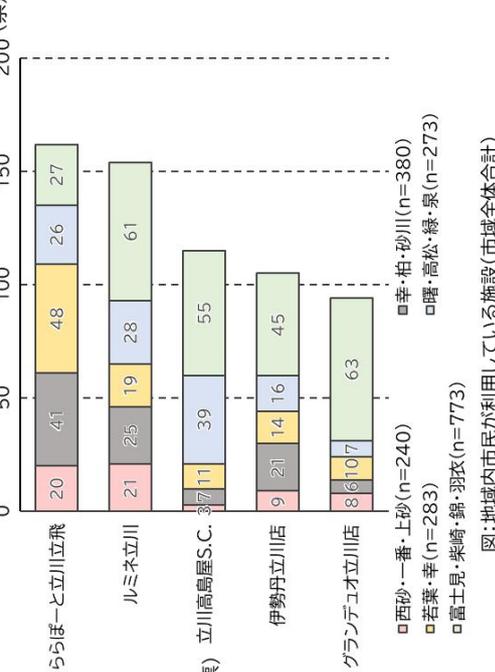
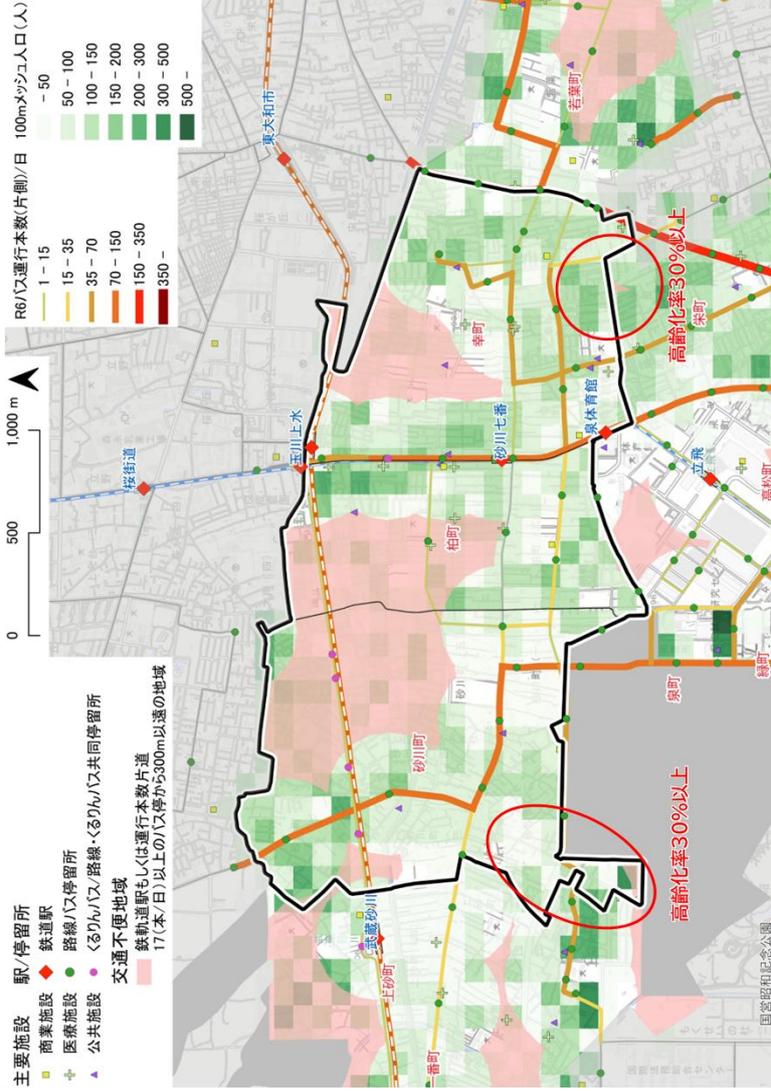


図: 地域内市民が利用している施設(市域全体合計)
 図: 地域内市民が利用している医療施設
 図: 地域内の市民が利用している医療施設
 図: 地域内の市民が利用している商業施設

【商業施設】西武立川駅、武蔵砂川駅付近に立地しているほか隣接市にも立地しており、「ヤオコー西武立川店」の利用が多いほか、「イオンモールむさし村山」などの近隣市の商業施設を利用している人もいる。
 【医療施設】医療機関は地域内に点在。大規模な総合病院を利用している人もいれば地域の医療機関を利用している人もいる。
 【公共施設】西砂学習館、西砂会館、天王橋会館、上砂会館などの地域の公共施設が複数立地している。

地域別カルテ② (砂川町・柏町・幸町) -地域・移動特性-



表：町別の市民の行先(発着地)

発地	ゾーン 内々	着地 (上位5位)				
		1位	2位	3位	4位	5位
砂川町	9,000	東京23区	武蔵村山市	柏町・幸町	立川駅周辺	昭島市
柏町・幸町	14,000	東京23区	立川駅周辺	泉町・緑町(東)	砂川町	若葉町
		10%	7%	6%	5%	3%

出典：株式会社3g000「ポイント型流動人口データ」

図：現況図(砂川町・柏町・幸町)

表：町別人口推移・R6高齢化率

	R6人口 (人)	2015年 →2024年 人口増減率	高齢 化率 (R6)
砂川町	17,719	108%	24.7%
柏町	9,586	104%	23.9%
幸町	13,942	105%	26.4%
合計	41,247	106%	25.1%



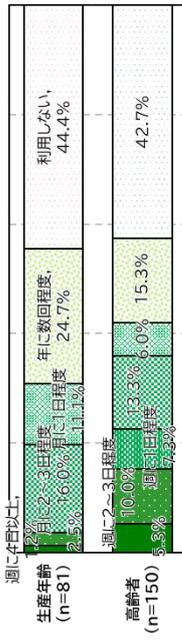
表：主な目的における外出時
市内において利用する交通手段

表：自宅からの外出時
最初に利用する鉄軌道駅

砂川町・柏町・幸町 生産年齢 (n=229)		
1位	自動車(自分で運転)	39%
2位	自転車(所有)	37%
3位	鉄道・モノレール	25%
高齢者 (n=371)		
1位	路線バス	26%
2位	自動車(自分で運転)	26%
3位	徒歩	23%

出典：立川市 地域公共交通に関する市民アンケート調査

表：自宅からの外出時
最初に利用する鉄軌道駅



図：路線バスの利用頻度



図：交通手段が理由で外出をあきらめたことの有無

- ・【人口/高齢化率】人口は砂川町、柏町、幸町ともに微増傾向である。高齢化率は、各町で25%前後であり、砂川町と幸町の一部地域で30%を超えている。
- ・【交通不便地域/移動手段】少ないバス路線周辺やバス停から距離のある場所など、砂川町、柏町、幸町のバス停から距離のある地域では交通不便地域が存在する。
- ・【鉄軌道駅/移動手段】自宅からの外出時、最初に利用する鉄軌道駅は、生産年齢では立川駅、高齢者では立川駅の利用が最も多い。生産年齢では自動車、高齢者では路線バス、自動車の利用率が高い。
- ・【路線バス利用頻度/外出をあきらめたこと】の無無】高齢者約23%が週1回以上、路線バスを利用している。交通手段が理由で外出をあきらめたことのある高齢者の割合は約22%である。

地域別カルテ③ (若葉町・栄町) - 地域・移動特性 -

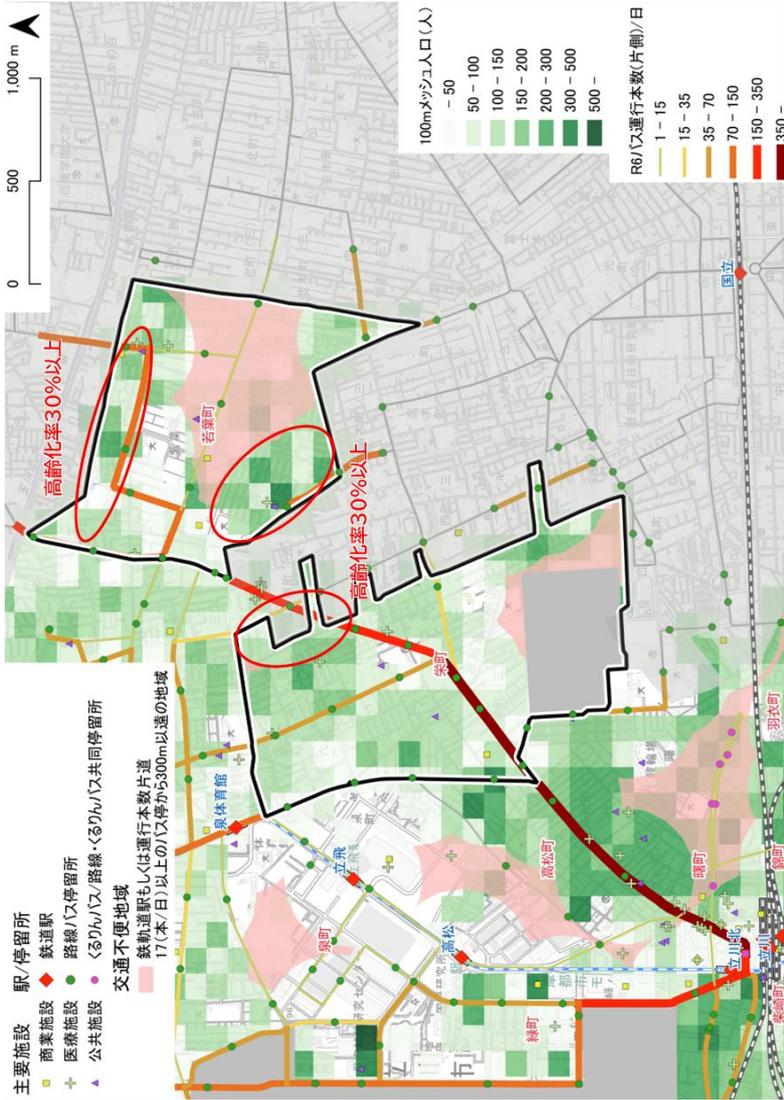


図: 現況図(若葉町・栄町)

表: 町別の市民の行先(発着地)

発地	総トリップ数(発)	ゾーン内々	着地(上位5位)				
			1位	2位	3位	4位	5位
若葉町	4,700	33%	東京23区	柏町・幸町	国分寺市	立川駅周辺	小平市
栄町	5,400	31%	立川駅周辺	柏町・幸町	東京23区	高松町・曙町	泉町・緑町(東)
			10%	8%	8%	5%	5%

出典: 株式会社3900「ポイント型流動人口データ」

表: 町別人口推移・R6高齢化率

	R6人口(人)	2015年→2024年人口増減率	高齢化率(R6)
若葉町	11,031	88%	34.0%
栄町	12,967	100%	25.0%
合計	23,998	94%	29.1%



図: R6年齢構成比

表: 主な目的における外出時市内において利用する交通手段

若葉町・栄町	
生産年齢	(n=141)
1位	自転車(所有) 50%
2位	徒歩 30%
3位	自動車(自分で運転) 24%
高齢者	(n=287)
1位	路線バス 41%
2位	自転車(所有) 23%
3位	徒歩 22%

出典: 立川市 地域公共交通に関する市民アンケート調査

※: 上位3位のみ抜粋

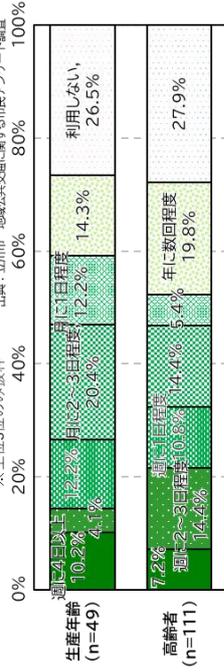


図: 路線バスの利用頻度

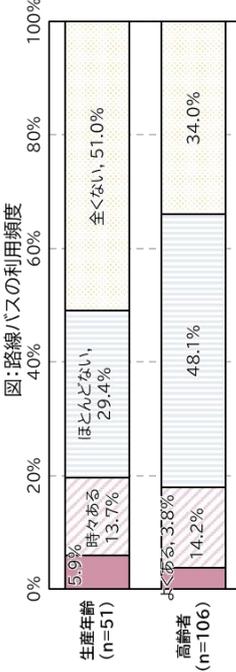
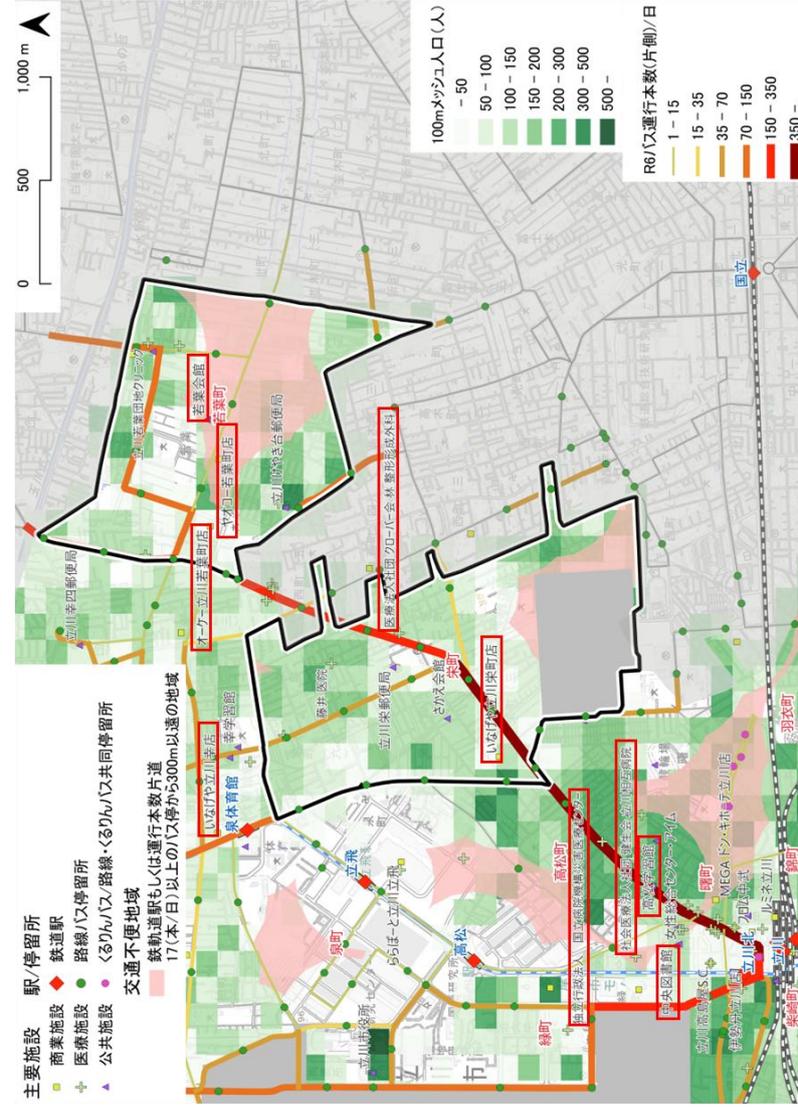


図: 交通手段が理由で外出をあきらめたことの有無

【人口/高齢化率】人口は若葉町で減少傾向であり、栄町でほぼ横ばいである。若葉町の高齢化率は34%となっており、若葉町の東部や栄町の一部に交通不便地域が存在する。若葉町の高齢化率が30%を超える地域がある。
 【交通不便地域】立川通りを中心に多くの路線バスが運行しているが、若葉町の東部や栄町の一部の隣接市の鉄道駅の駅周辺は、立川駅が最も多い。
 【鉄道通車/移動手段】自宅からの外出時、最初に利用する鉄道通車は、立川駅が最も多い。路線バスの利用頻度/外出をあきらめたこと(有無)高齢者約32%が週1回以上、路線バスを利用している。交通手段が理由で外出をあきらめたこと(有無)高齢者の割合は約18%である。

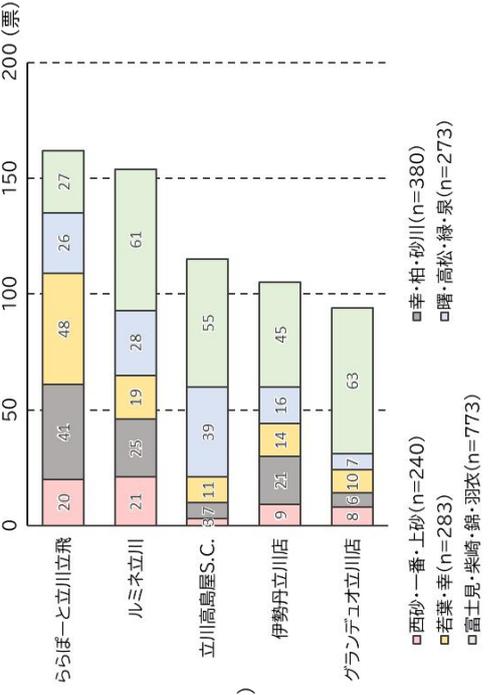
地域別カルテ③ (若葉町・栄町) -施設立地・主な利用施設-



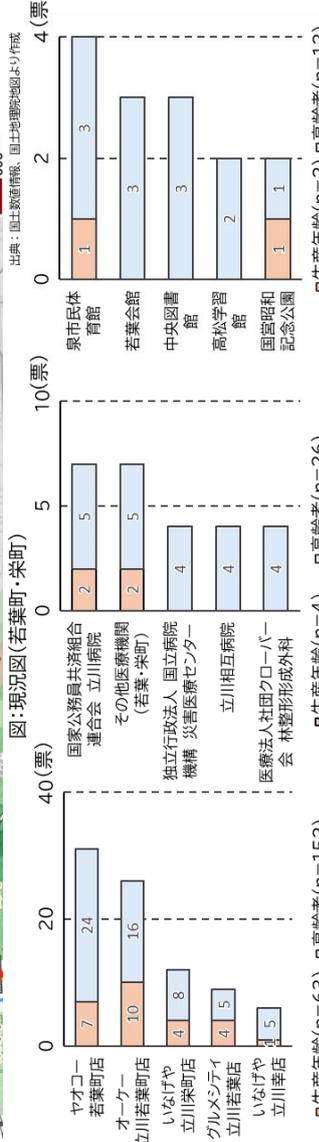
■ ワークショップにおけるご意見の抜粋
(主な利用施設に関する内容)

- ・地域内にスーパー(オーケーストア、ヤオコーetc.)や病院などの施設が整っている。【若葉町】
- ・東西方向の路線バスがないため、若葉町方面から公共交通で市役所(連絡所)できない手続き等)や泉市民体育館(健康づくり)に行く際は立川駅を経由する必要がある。
- ・バス停やスーパーなどから距離がある若葉町の一部地域では、高齢者はタクシーしか移動手段がない。

■ 【参考】(市域全体の最も・2番目・3番目によく出かけた目的における行先)



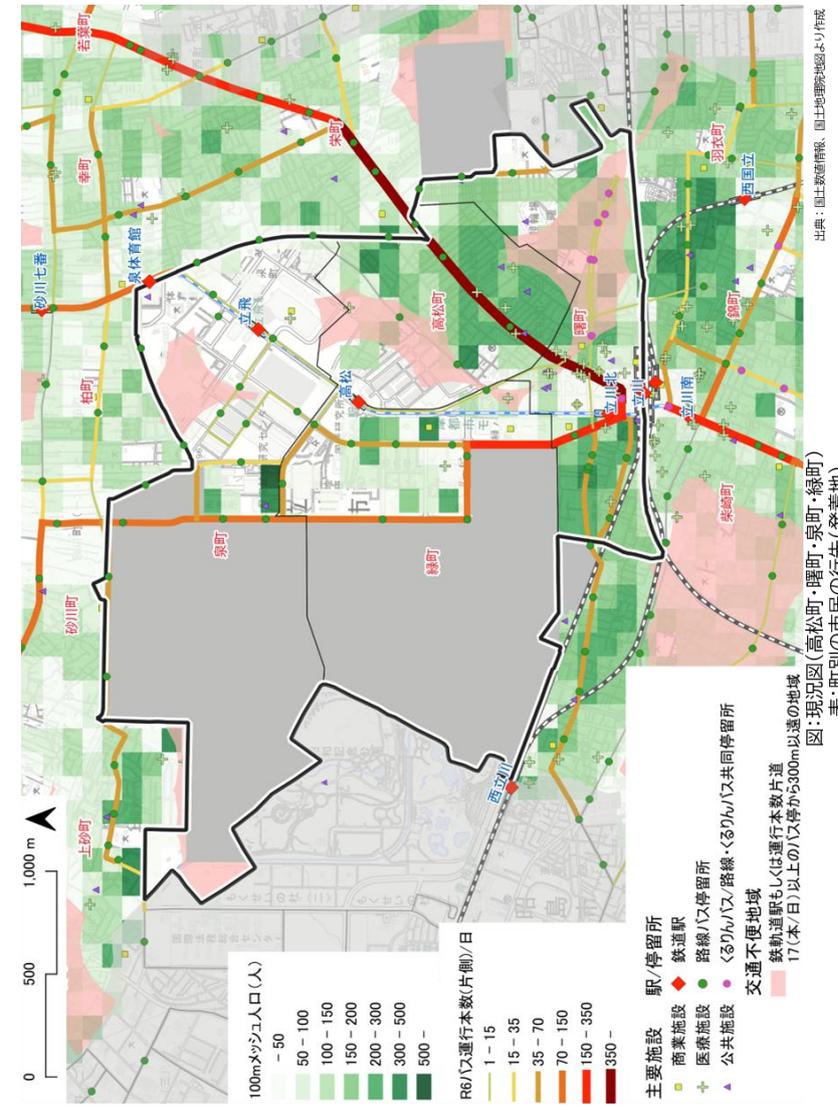
図：地域内市民が利用している施設(市域全体合計)
 ※「主外出目的」市民アンケートにおいて日常生活における1・2・3番目に多いと回答された目的
 ※上位5施設を掲載。(参考)に示す市域全体で訪れる機会が多い施設は集計から除外



図：地域内市民が利用している施設(公共等)施設
 □生産年齢(n=2) □高齢者(n=12)
 □生産年齢(n=4) □高齢者(n=26)
 □生産年齢(n=63) □高齢者(n=152)

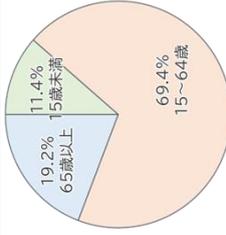
- ・【商業施設】若葉町に複数立地している。栄町には1か所立地しているほか、国立市との市境付近に複数立地している。
- ・【医療施設】若葉町では立川通りや五日市街道沿道に複数立地しており、栄町では立川通りや江の島道に立地している。地域内の医療機関を利用しているほか、規模の大きい総合病院を利用している人もいる。
- ・【公共施設】若葉会館、若葉図書館、若葉図書館などの地域の公共施設が立地している。

地域別カルテ④ (高松町・曙町・泉町・緑町) - 地域・移動特性 -



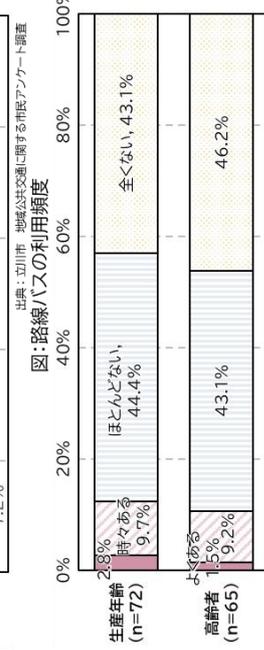
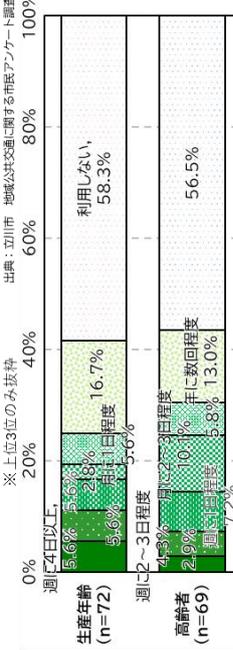
表：町別人口推移・R6高齢化率

	R6人口(人)	2015年→2024年人口増減率	高齢化率(R6)
高松町	11,942	122%	20.0%
曙町	12,664	113%	20.9%
泉町	1,352	96%	16.5%
緑町	1,952	73%	5.7%
合計	27,910	112%	19.2%



表：主目的における外出時市内において利用する交通手段

高松・曙町・緑町・泉町	
生産年齢	(n=204)
1位	徒歩 60%
2位	自転車(所有) 25%
3位	鉄道・モノレール 21%
高齢者 (n=190)	
1位	徒歩 57%
2位	自転車(所有) 21%
3位	自動車(自分で運転) 13%



表：町別の市民の行先(発着地)

発地	総トリップ数(発)	着地(上位5位)					
		ゾーン内々	1位	2位	3位	4位	5位
泉町・緑町(西)	1,200	15%	立川駅周辺	砂川町	泉町・緑町(東)	東京23区	昭島市
泉町・緑町(東)	7,600	20%	柏町・幸町	立川駅周辺	砂川町	富士見町・柴崎町	
高松町・曙町	5,200	30%	立川駅周辺	東京23区	泉町・緑町(東)	柏町・幸町	

出典：株式会社goodポイント型流動人口データ

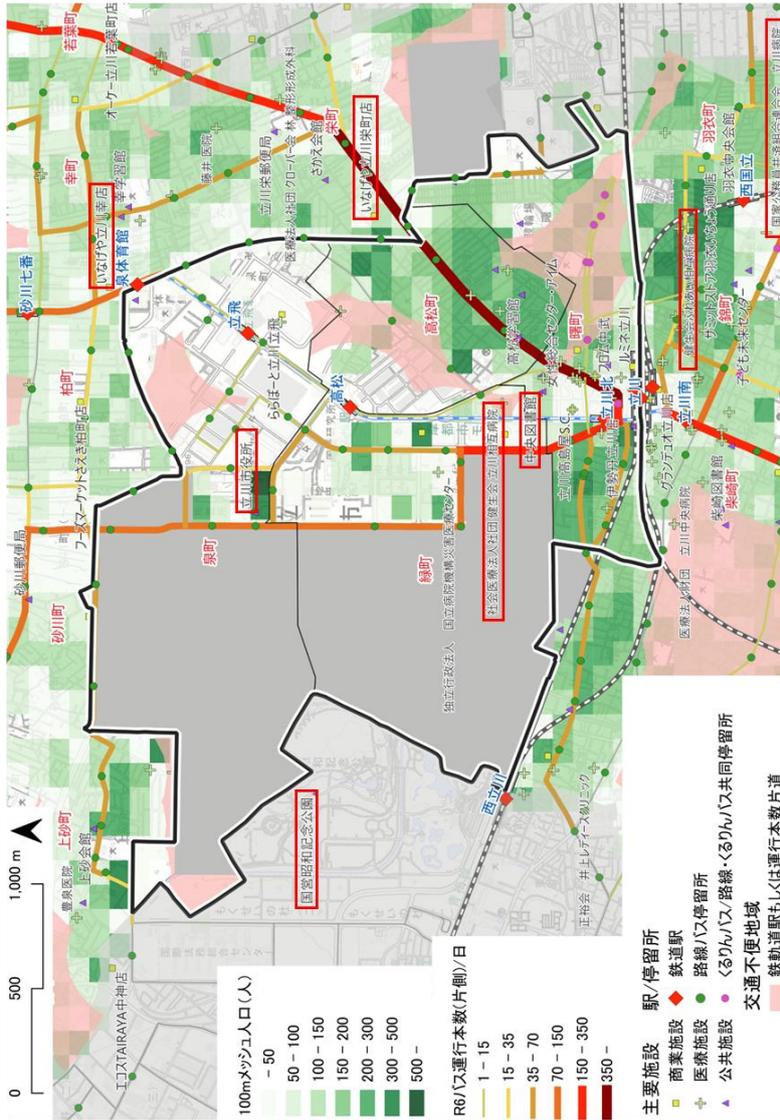
【人口/高齢化率】人口は高松町・曙町で増加傾向、泉町は微減、緑町は減少傾向にある。泉町・緑町は企業立地や非可住地が多く人口が少ない。高齢化率は、高松町が最も高いものの20.9%であり、最も低い緑町で5.7%である。

【交通不便地域/運行本数の少ないバス路線周辺やバス停から距離のある場所など、曙町の東部に交通不便地域が存在する。】

【鉄道/駅/移動手段】自宅からの外出時、最初に利用する鉄道/駅は、生産年齢・高齢者ともに90%以上が立川駅である。生産年齢・高齢者ともに徒歩での移動が最も多く、50%を超えている。

【路線バス利用頻度/外出をあきらめたことの有無】高齢者の約14%が週1回以上、路線バスを利用している。交通手段が理由で外出をあきらめたことのある高齢者の割合は約11%である。

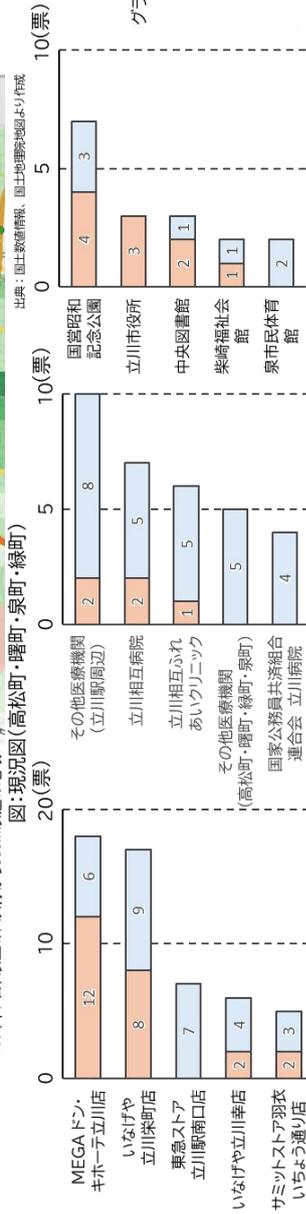
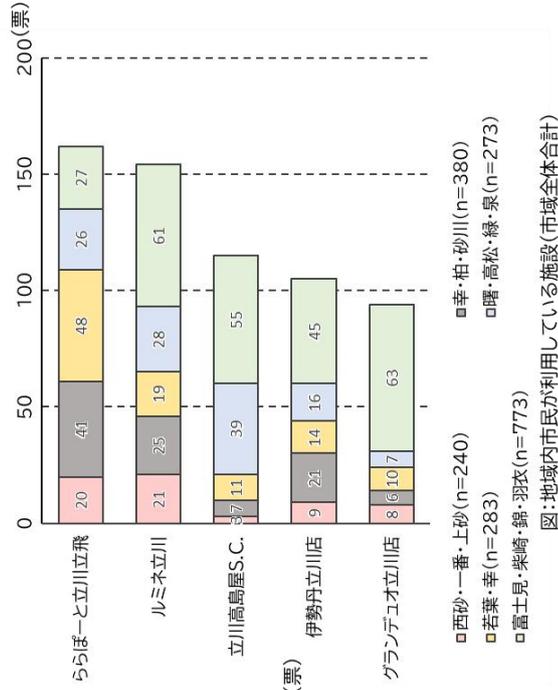
地域別カルテ④ (高松町・曙町・緑町) - 施設立地・主な利用施設 -



■ ワークショップにおけるご意見の抜粋 (主な利用施設に関する内容)

- ・ 泉町には日常的な買い物をするためのスーパーがなく、立川駅まで出ていく必要がある(バスがライフライン)。
- ・ 曙町では買い物等の日常生活では駅まで徒歩や自転車で移動している。高松学習館や市役所などの公共施設に行くには不便(立川駅を経由する必要あり)。

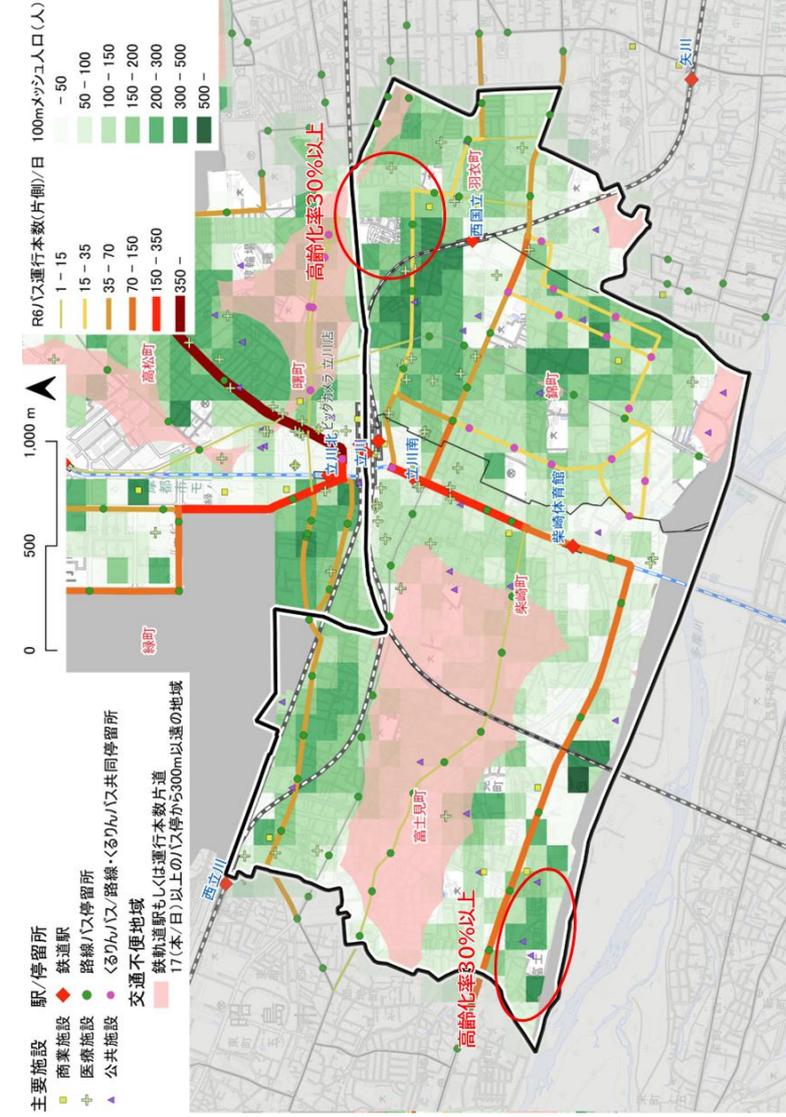
■ 【参考】(域全体の最も2番目・3番目によく出かけた目的における行先)



※「主な外出目的」: 市民アンケートにおいて日常生活における1・2・3番目に多いと回答された目的
 ※上位5施設を掲載。(参考)に示す域全体で訪れる機会が多い施設は集計から除外

- ・【商業施設】立川駅前を中心に大規模な商業施設が集中して立地している。駅前の大規模な商業施設を除くと、「いなげや立川栄町店」の利用が多い。
- ・【医療機関】立川駅を中心に多くの医療機関が大規模な病院の利用も多い。
- ・【公共施設】市役所、窓口サービスセンター、女性総合センター、泉市民体育館など主要な公共施設のほか、高松学習館、高松図書館、曙福祉会館などの地域の公共施設も複数立地している。

地域別カルテ⑤ (富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町) -地域・移動特性-



図：現況図(富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町) 出典：国土数値情報、国土地理院地図より作成

表：町別の市民の行先(発着地)

発地	総トリップ数(発)	着地(上位5位)				
		1位	2位	3位	4位	5位
富士見町・柴崎町	10,400	立川駅周辺 16%	東京23区 12%	昭島市 6%	泉町・緑町(東) 4%	八王子市 3%
羽衣町・錦町	8,600	立川駅周辺 16%	東京23区 12%	国立市 5%	八王子市 3%	富士見町・柴崎町 2%

出典：株式会社9000「ポイント型流動人口データ」

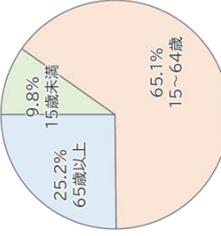
表：町別人口推移・R6高齢化率

	R6人口(人)	2015年 →2024年 人口増減率	高齢化率(R6)
富士見町	19,041	96%	29.4%
柴崎町	10,532	106%	23.3%
錦町	18,551	114%	20.2%
羽衣町	9,417	97%	28.5%
合計	57,541	103%	25.2%

表：自宅からの外出時
最初に利用する鉄軌道駅

富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町	
生産年齢(n=129)	
1位	立川 64%
2位	西国立 23%
3位	西立川 9%
高齢者(n=198)	
1位	立川 62%
2位	西国立 24%
3位	西立川 8%

※上位3位のみ抜粋

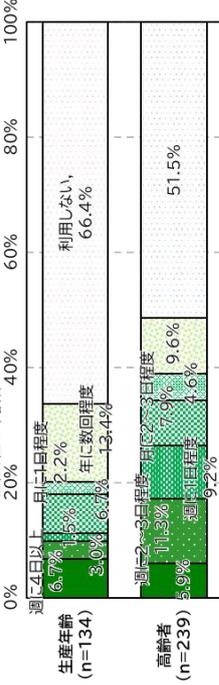


図：R6年齢構成比
出典：国勢調査、住民基本台帳より作成

表：主な目的における外出時
市内において利用する交通手段

富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町	
生産年齢(n=373)	
1位	徒歩 51%
2位	自転車(所有) 35%
3位	鉄道・モノレール 18%
高齢者(n=601)	
1位	徒歩 43%
2位	自転車(所有) 30%
3位	路線バス 27%

出典：立川市「地域公共交通に関する市民アンケート調査」



図：路線バスの利用頻度
出典：立川市「地域公共交通に関する市民アンケート調査」

生産年齢(n=133)	
ほとんどない	32.3%
時々ある	9.8%
よくある	5.9%
全くない	51.9%

高齢者(n=228)	
ほとんどない	50.4%
時々ある	9.6%
よくある	34.6%

出典：立川市「地域公共交通に関する市民アンケート調査」

図：交通手段が理由で外出をきらめたことの有無

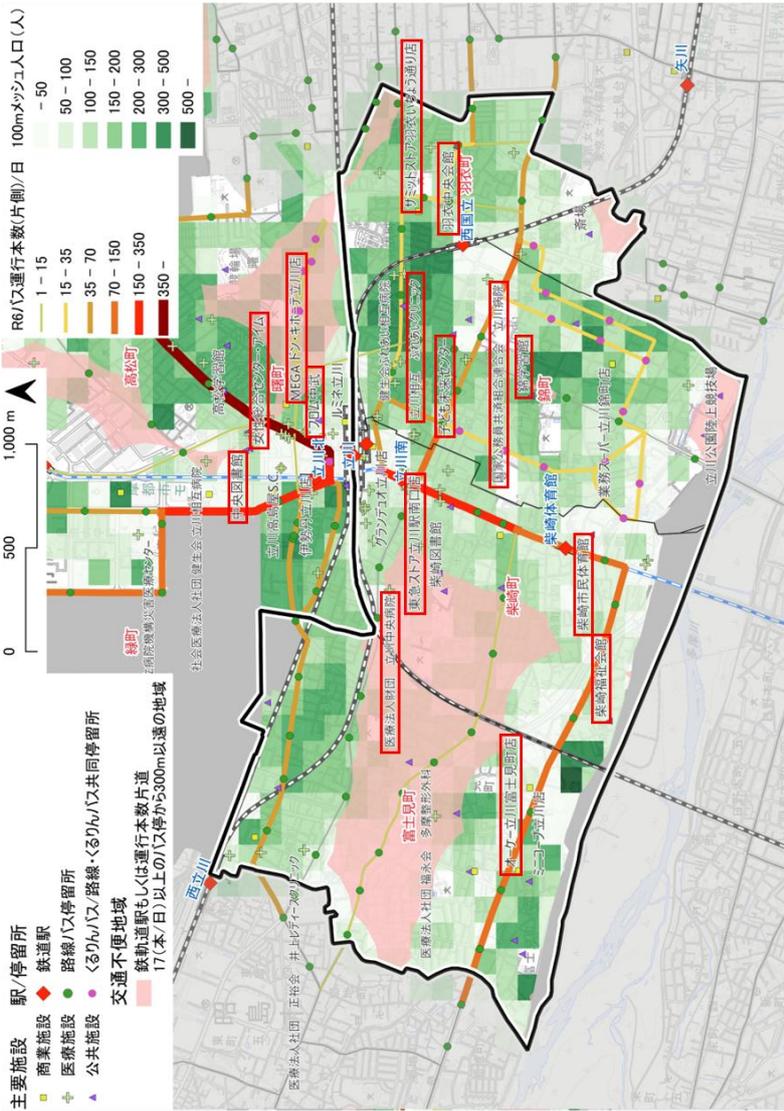
【人口/高齢化率】人口は柴崎町で微増、錦町では増加傾向であるのに対し、富士見町・羽衣町では微減傾向にある。高齢化率は、富士見町が最も高く29.4%であり、最も低いのが錦町で20.2%である。富士見町や羽衣町の一部地域では高齢化率が30%を超えている地域が存在する。

【交通不便地域】運行本数の少ないバス路線周辺やバス停から距離のある場所など、富士見町の坂上に広い範囲の交通不便地域が存在する。

【鉄軌道駅/移動手段】自宅からの外出時、最初に利用する鉄軌道駅は、生産年齢・高齢者ともに60%以上が立川駅である。生産年齢・高齢者ともに徒歩・自転車での移動が多い。

【路線バス利用頻度/外出をきらめたことの有無】高齢者の約26.4%が週1回以上、路線バスを利用している。交通手段が理由で外出をきらめたことのある高齢者の割合は約15%である。

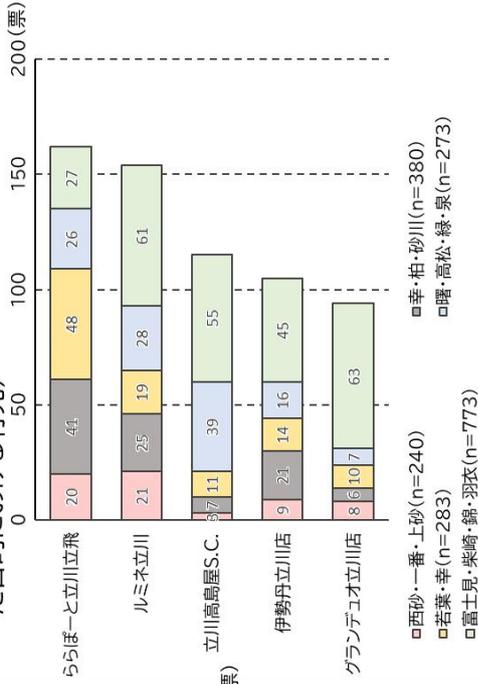
地域別カルテ⑤ (富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町) - 施設立地・主要利用施設 -



■ ワークショップにおけるご意見の抜粋 (主な利用施設に関する内容)

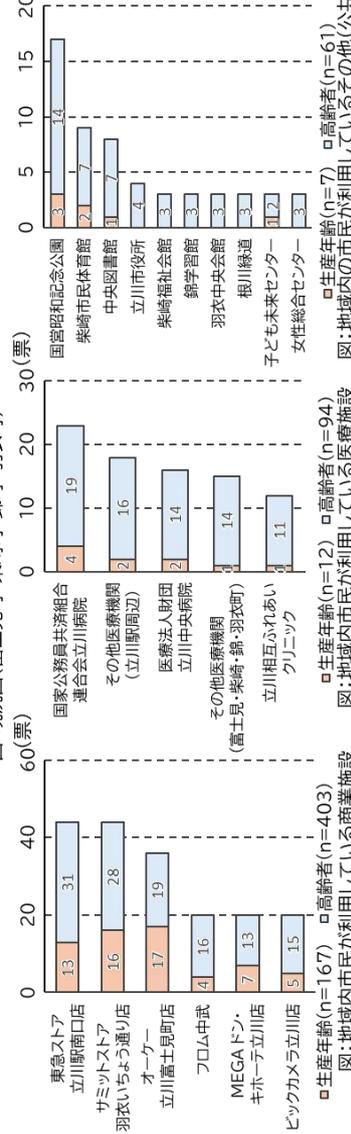
- ・富士見町では地域拠点として薄ノ上会館をよく利用している(路線バスの便数が少ない)。
- ・富士見町4丁目周辺で移動手段を持たない高齢者は、商業施設が遠いと荷物が負担になるため、ネットスーパーを利用している人もいる(外出が減っている)。
- ・富士見町では坂上と坂下で地域格差がある。坂下は団地周辺にスーパーなどが立地。坂上(富士見町4丁目、5丁目周辺)にはスーパーがない。
- ・サミットや西友で買い物。【羽衣町】
- ・業務スーパーや西友(青柳通り)がある。京王バスが減便し移動手段がなくなつたことで、日常の買い物はネットスーパーを利用している高齢者もいる(本当は商品を見て買いたい)。**【錦町】**
- ・高齢者は通院でタクシーを利用していることが多い。**【錦町】**

■ 【参考】(市域全体の最も2番目・3番目によく出かけた目的における行先)



図：地域内市民が利用している施設(市域全体合計)
 ※(主な外出目的)市民アンケートにおいて日常生活における1・2・3番目に多い回答された目的※(上位5施設を掲載)(参考)市域全体で訪れる機会が多い施設は駅から除外

図：現況図(富士見町・柴崎町・錦町・羽衣町)



図：地域内市民が利用している商業施設
 図：地域内市民が利用している医療施設
 図：地域内市民が利用している公共施設

- ・【商業施設】駅前到大規模な商業施設が複数立地している。立川駅前の商業施設を除くと、「サミットストア羽衣いちよう通り店」や「オーケー立川富士見町店」の利用が多い。
- ・【医療施設】立川駅を中心に多くの医療機関が大規模な病院の利用が多い。
- ・【公共施設】子ども未来センターやましんRISURUホールといった主要な公共施設が立地するほか、柴崎福祉会館や柴崎学習館や錦学習館、薄ノ上会館などの地域の公共施設が複数立地している。

立川市地域公共交通計画
令和8(2026)年3月発行

発行 立川市
東京都立川市泉町 1156 番地の9
電話 042-523-2111(代表)
FAX 042-521-3020
ホームページ <https://www.city.tachikawa.lg.jp/>
編集 産業まちづくり部地域公共交通担当課



